

夏だ!

カブトムシを飼ってみよう!

本格的夏も近づいてきました。今回のテーマは「カブトムシを飼ってみよう!」です。でも、ただ飼うだけでは面白くありません。今年の夏はカブトムシを飼って産卵させ、その卵を成虫まで育ててみませんか? 来年の夏にはたくさん成虫が手に入りますよ!

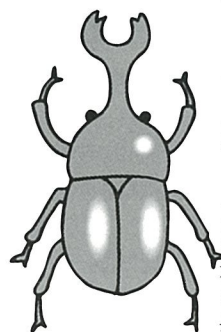


普及センター

だより

まず、親虫を手に入れよう

カブトムシは町のホームセンターでも売っていますが、山武地域にはまだ自然が多く残されています。成虫を探してみましよう。成虫を取るには広葉樹の樹液、夜間の外灯の周りが手頃です。カブトムシが外灯によく飛来する晩は、蒸し暑く、あまり風のない日。月が出ていなければ最高です。樹液での採取も夜間や早朝がベストです。早起きして狙いをつけた木を見てください。カブトムシは林の奥



よりも、案外道端の樹液に多く集まるものです。また、梨園やスイカ畑の脇に果実を捨ててある場所があったら狙い目です。

さて、飼育を始めよう

飼育容器は蓋つきプラスチック水槽で十分です。雌雄を同じ容器に入れておけば交尾は簡単に行いますが、雄を複数入れておくとけんかして傷つけあつてしまいます。エサはバナナや市販の昆虫ゼリーです。スイカやメロンなど水分の多いものは控えてください。直射日光は厳禁です。ケースの底に広葉樹の腐葉土や市販の昆虫マットを入れておけば雌が潜って産卵します。1匹の雌が50卵近く生みます。夏が終われば成虫が死んだらそっと腐葉土の中を調べてくだ

幼虫を飼う

さい。すでに幼虫が孵かえっているかもしれません。

幼虫を飼うには、底の深い容器が適しています。カブトムシの幼虫は年内に終令幼虫まで成長します。エサを十分与えないと幼虫は大きく育ちません。飼育容器内に糞が目立つようになつたら広葉樹の腐葉土、椎茸栽培後のほだ木等を早めに足して下さい。冬は室内の涼しいところで越冬させます。幼虫は春になると再びエサを食べ始めます。5月になつたら容器の底に10cm位土を入れそのうえにエサを入れてください。十分成長した幼虫は土の中で蛹まごになります。蛹になつて3週間ほどで成虫になります。羽化直後は体が軟らかいので体が固まって自力で外に出てくるまで待つてください。

里山とカブトムシ

カブトムシは、日本人の農耕生活と大きく関わってきました。昔、カブトムシは森の中で暮らす昆虫だつたと考えられていました。そんな虫が人間の作る堆肥を増やしてきたのです。里山の風景は私たちの心を豊かにしてくれるだけでなく、カブトムシや多くの動植物にとつても大切な住みかなのです。

※ 問い合わせは、山武農業改良普及センター(0475-57-0227)へ。

文芸

俳句

若みどり山脈低く續きけり

今関 茂生

花満ちて校庭の屋静かなり

藤代 ゆう

新緑の植垣刈りし匂ひかな

土屋 栗水

訪へば坂の道なる桐の花

福田 晴一

良くねむる児に新緑の風やさし

玉虫 たけし

叡山の鐘餅して緑濃し

戸村 静華

新緑やぼつんと一三輪車

小林 順子

新緑や首をふりふり宮の鳩

福田 幸子

新緑に映えて野点の緋毛氈

若梅 あやめ

温泉の町の湯女塚ゆなづか供養若葉寺

選者 山口一秋

短歌

水溜まりに映れる雲が散歩する吾の方へと動き速めつ

秋葉 悦子

耳許に医師は小さく告げくれぬ母の臨終ことば失ふ

永藤 滋

憂きことも暫し忘れて早春の庭に野鳥の啼くをききあつ

吉岡 信子

入院の姉の容態気になりてひそかに割烹着持ちて家出づ

池田 春江

背もたれの座椅子を嫁にもらひたり母の日けふはゆつたり座る

秋葉 とく

挿し木せし丁子の新芽のびそめて日に幾度か立ち止り見る

鈴木 やす

鶯の姿は見えねど鳴くを聞き啼く音まねつつ買ひ物にいく

石井 ユク

そら豆の莢幼らと剥く厨青き香りをいっばいひろげ

佐瀬 初音

七色の虹の青さに染まりしや飛燕草の花の深きブルーは

八角 三枝

船いくつ白く光りておだしかり空より見下す玄界灘は

押尾 輝子

石仏に散りし桜のひとつに裳裾のあたりほのと華やぐ

西山 満里子

ギブスせる幼より取りてやる尿ちまみの温もりよ命あるゆゑ

選者 斎藤つね子

